

宮崎国際大学 教育学部ニュースレター

平成26年度入学した一期生は、いよいよ 教員採用試験を受験します！

教育学部長 福田 亘博



教育学部は、平成25年11月末に文部科学省より学部設置が認可され、平成26年度に入学生・一期生の募集を行いました。従って、一期生は4年次に進級しますが、同時に小学校教諭一種免許状・幼稚園教諭一種免許状を選択した学生23人（小幼コース）は、いよいよ3ヶ月半後には教員採用試験（平成29年7月中旬予定）を受験します。

一期生は、本学が特色としている忍ヶ丘教養を始め、英語力・音楽力を高める教育カリキュラム、体系的・段階的に配置した基礎専門・専門教育カリキュラムを学年進行に伴い履修し、教員として求められる教科力・教育実践力を着実に身に付けてきました。また、教員採用試験合格を目指して、学生教職支援センターが主催・支援するダブルスクール並みの充実したオプション教育プログラム（教科・教職ゼミ、教員採用試験合格支援プログラムなど）を履修しました。

昨年11月には1ヶ月間の小学校における教育実習を済ませ、学生アンケートを見る限り「絶対に教員になる」という強いモチベーションも確認されました。また、対策講座における過去問の正解率や業者が主催する模擬試験の採用試験合格判定評価を見ると、学生の半数以上が宮崎県における教員採用試験の合格ラインに達していました。

学生諸君には、教育学部に入学した時の「絶対に小学校教員になる」という気持ちが達成されるように、残された時間をしっかりと、悔いのないように勉強し、教員採用試験に合格することを期待しています。



小幼コース実習報告会



幼保コース実習報告会

就職・進学支援課にて個人面談を実施しています

就職・進学支援課 課長 佐土原 敦



教育実習が終わった12月より、就職・進学支援課で3年生一人一人と個人面談を始めました。個々の進路希望を確認し、企業や保育所、幼稚園、認定こども園に就職を希望する学生には、どのように求人情報を知り、就職活動を進めていけば良いのか等を説明しています。

また、教員希望の学生にも面接試験は必須なので、事例を挙げて自分のことを説明できるように、過去を振り返り自己分析することを勧めています。進路希望としては、小学校教員を目指す学生が多く、数名が企業や幼稚園、保育園を就職先として考えています。

教育学部では、小学校・幼稚園・保育所などの就職を視野に入れた講座や各種ゼミが行われており、支援体制も学生教職支援センターを中心に学部全体で学生個々に支援が行われています。ですから、就職・進学支援課は、教員を目指す学生以外の進路支援が主な役目になります。

これから進路変更をする学生もいるかと思いますが、卒業する学生が、自分の希望する進路に進めるよう、教育学部の先生方と共にできる限りのサポートをしていきます。

目次

一期生はいよいよ教員採用試験を受験します	1
就職・進学指導課にて個人面談を実施しています	1
教育実習を通して貴重な経験をしました	2
「忍ヶ丘教養」を終えて	3
クラブ紹介 バasketボールクラブ	3
教育学部教員から	3
保育実習Ⅰaに向けて	4
一年間を振り返って	4
入試情報	4

ハイライト

平成29年度 教育学部新4年生はすでに教育実習を終え、教員採用試験合格や就職に向け、努力を重ねています。

4週間の教育実習を通して貴重な経験をしました！

教育学部3年生が、11月7日（月）から12月5日（月）までの4週間にわたり（実習先によって日程は多少異なるります）、初めての教育実習を経験しました。小幼コースの23人は小学校で、幼保コースの3人は幼稚園での教育実習でした。実習を通して一人一人が貴重な経験をさせていただき、大きな感動を味わうとともに、将来の夢の実現に向けた思いを強くしました。



教育実習Ⅰ(小学校)を終えて

教育学部3年 甲斐 野乃可
(宮崎県 日南学園高等学校出身)



「失敗は成功のチャンス！」これは私が実習させて頂いた学級の合言葉です。実習では上手くいかないことの方が多かったのです。だからこそ、多くのことを学べ自分自身が成長できるチャンスだと感じました。

「今日できなかったことの1つを明日頑張ろう！」地道に聞こえるかもしれませんが、これが1番の近道だと思います。そして、一生懸命な気持ちは自然と子どもたちに伝わります。私は、子どもたちの笑顔に何度もパワーをもらい、やり甲斐を感じました。教師は、いい意味でも悪い意味でも大きな影響を与える存在です。だからこそ、日々試行錯誤しながらより良い学級を目指し、子どもたちの気持ちに寄り添える教師になりたいと思いました。

教育学部3年 黒岩 光貴
(宮崎県立宮崎西高等学校出身)



約4週間の小学校教育実習では、現場ならではの様々なことを体験し、多くのことを学ぶことができました。

特に濃い経験、学びとなったのは研究授業です。研究授業をするたびに反省点を探し、よりよい授業を作っていくのは非常に難しく大変なものでした。具体的には、児童の実態に応じて全員が理解できる授業を計画することや、授業を行っている際にも、児童のモデルになるために文字の書き方や言葉遣いなどに気をつけることです。

しかし、児童たちのために力を注いだ分、児童も一生懸命授業に取り組んでくれるので、それをやりがいに頑張ることができました。

また、学校内の組織の動きや児童たちとの関わり方などについても、非常に多くのことを学ぶことができました。これらの知識、技術を教員採用試験に向けて生かしていこうと思います。

また、学校内の組織の動きや児童たちとの関わり方などについても、非常に多くのことを学ぶことができました。これらの知識、技術を教員採用試験に向けて生かしていこうと思います。

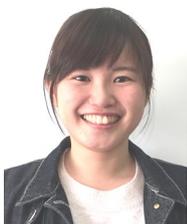
教育学部3年 山元 美奈
(宮崎県立宮崎北高等学校出身)



人なつっこくてかわいい多くの子どもたちと出会いました。緊張している自分にたくさん話しかけてくれて、おかげで安心して実習に取り組むことができました。昼休みは毎日子どもたちと遊び、授業中とは違った表情を見ることができました。静かで自分からは話しかけてこない子どもが、こちらから話しかけると喜んでくれました。

そのような関わりがあったことで、授業中に子どもたちが積極的に発表してくれました。この経験から日頃の関わり方、接し方が大切だと感じることができました。授業は準備が大変でしたが、準備に時間をかけただけ子どもから返ってくるものがあると感じました。

教育学部3年 太田原 真琴
(宮崎県立宮崎南高等学校出身)



今、強く心に残っているのは、研究授業を終えた後、子どもたちから「先生、分かりやすかった。」「先生、また授業して！」と言われたことです。がんばって授業の準備をした甲斐があったと思いました。そのほかにも、様々な先生に、「あなたは教師に向いているよ。」と言っていただけで、今までは本当に感じたことがなかった「自信」を、この実習で持つことができました。

教育実習Ⅰ・Ⅱ(幼稚園)を終えて

教育学部3年 安藤 智夏
(宮崎県立高鍋高等学校出身)



2週間を過ぎた頃から朝の会や帰りの会、給食の時間の担当をさせていただいたので、活動の進め方や流れをつかむことができ、自信ができました。初めて担当したときはとても緊張しましたが、何度もさせていただいたことで、4週目にあった一日保育や研究保育のときには緊張することなく、一日の活動を予定どおり進めることができました。

研究保育でも、子どもたちが楽しそうに製作してくれたり、教室に飾ったときも「あれ、僕のがつくったやつ！」などどうれしそうに報告してくれたりしたので、この活動をやってよかったと感じることができました。

忍ヶ丘教養を終えて

教育学部2年 鳥原 麻友子 (宮崎県立宮崎大宮高等学校出身)

「忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳ」の授業では、幅広い分野に関して学ぶことができました。「忍ヶ丘教養Ⅲ」では、様々な分野の講師の方々から、普段学べないような貴重なお話を聞くことができ、採用試験に役立つのはもちろん、これから教師を目指すうえで多くの必要な知識を得ることができました。

「忍ヶ丘教養Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」は実践的な内容で、「忍ヶ丘教養Ⅱ」で論文の構成や読み方について学び、二人一組で論文を読み、プレゼンテーションを行う経験を、「忍ヶ丘教養Ⅳ」では「ミニ卒論」という形で1つのテーマについて研究し、発表するという一連の流れを経験することができました。

「忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳ」を通して、教育に関する

ことをはじめ、宮崎や清武についての知識や、大学生として必要な知識を学ぶことができました。教師という職業に改めて向き合うことのできた貴重な時間になったと思います。



鳥原さんは『「対話」する読書へ』という題目で発表しました

クラブ紹介



私の所属しているバスケットボールクラブは、月曜日・木曜日・土曜日の週三回活動しています。

バスケットボールクラブ

教育学部1年 清藤 駿希 (大分県立宇佐高等学校出身)

す。活動内容も高校の部活とは違い、ほとんどが試合という形になっているため、初心者も経験者に混ざりみんなで楽しく活動しています。公式試合にも出場し、私たちは人数が少ないながらも全員で団結し勝利を手にすることもできました。

私は大分から宮崎に来たこともあり、多くの不安がありました。しかし、このクラブを通して信頼できる先輩や、大切な仲間と出会い、大学に馴染むことができました。私にとってバスケットボールクラブはとても大切な場所です。これからも「バスケ仲間」として充実した毎日を送ってきたいと思います。

教育学部教員から

“Think globally, act locally”

准教授 渡邊 耕二

私は、算数・数学教育を担当しています。算数・数学の好き嫌いなど、想いはさまざまだと思いますが、誰もが学んだ経験を持っているはずです。算数・数学教育は世界各国で行われ、世界中の子どもが算数・数学を学んでいます。しかし、「なぜ算数・数学を勉強するのか？」と疑問を持った人は少なくないでしょう。学習指導要領や算数・数学教育の専門書を見ると、その理由と背景を知ることができますが、「数学する」ことで得られる何かを大切に、それを実感してほしいと考えています。

算数・数学には言葉の壁を乗り越える普遍的な面があります。「数学する」ことで得られる何かも同様かもしれません。だからこそ、算数・数学教育の質向上が国際的にも求められているのだと



東ティモールの小学校にて

思います。私自身は、算数・数学教育に関する国際協力の実践と研究を視野に入れながら、小学校教員を目指す学生とともに日々学んでいます。

“Think globally, act locally”を大切に、教育研究に努めたいと思っています。

(担当科目：数学と生活、算数、算数科教育法など)

保育実習 I aに向けて

教育学部 2年 川嶋 唯 (宮崎県立延岡星雲高等学校出身)



保育実習に臨むに当たって、私は保育者の役割を学びたいと思っています。

特に注目したいのが、保育者の声かけです。子どもと遊ぶときや、子ども同士のいざこざがあったときなど、保育現場には様々な声かけが必要になってきます。子どもが理解しやすい声かけができるよう、先生方の様子を参考にしたいです。

また、保育者は子どもとの関わりだけでなく、次の活動の準備やトラブルへの対応など、多くの仕事があると思います。その様子もしっかり観察したいです。

「保育士になる」という夢に一步でも近づけるよう、実際の保育現場で先生方から多くのことを学び、有意義な保育実習にしたいと思っています。

1年間を振り返って

教育学部 3年 古谷 一馬 (熊本県 ルーテル学院高等学校出身)

私はこの1年間、学友会の会長をはじめ、AA(アドバイザーアシスタント)、大学祭の実行委員長、野球部の部長などの責任のある役職を数多く経験させて頂きました。それらの役職を全うするには、非常に多くの時間と労力が必要であること、また、大学や友人などの協力が必要不可欠であることを痛感しました。

特に、学友会の会長としての活動は、とても印象に残っています。学友会では、七夕やハロウィン、クリスマスなどその季節ごとのイベントを開催し、学生と先生方が交流を図る機会を数多く設けてきました。中でも、ハロウィンやクリスマスでは、学生や先生方が好きな衣装に着替えて、お寿司やピザを食べながら楽しい時間を過ごし、会は大盛況となりました。様々な活動を通して、企画を練る大変さ、またそれを実行する難しさなど運営側に

いたからこそ味わうことのできた達成感がありました。

改めて、自分が成長することのできる経験をさせて頂いた大学側に感謝したいです。この経験を必ず生かして、将来の夢である教師になれるように努力していきたいです。



Miyazaki International College Open Campus 2017 を開催します!!

春のオープンキャンパスを3月18日(土)に開催します。皆様のお越しをお待ちしています!

- ◆日時 平成29年3月18日(土) 10:00~12:30
- ◆場所 宮崎国際大学
- ◆内容 大学概要・学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験談発表、交流カフェ他
- ◆お申込み方法 問い合わせ 0120-85-5931 または大学HPからもお申込み頂けます。

入試情報(選考区分)

- ◆一般入試(後期) ◆大学入試センター試験利用入試(後期)
- ◆AO入試(第7回) ◆特別入試(帰国生徒・社会人) ◆編入/転入

出願期間

平成29年
3月9日(木)~3月21日(火)

試験日

3月23日(木)
〔大学入試センター試験
利用入試を除く〕

入学試験についての詳細は、大学案内パンフレット、学生募集要項及び本学ホームページをご覧ください。

入試情報ページ→



大学案内を見る→



宮崎国際大学

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話: 0985-85-5931 FAX: 0985-84-3396

ホームページ: <http://www.mic.ac.jp>



大学教育再生加速プログラム